

第75期

事業報告書

(自 平成23年10月1日)
(至 平成24年9月30日)

Nimblox

助川電気工業株式会社

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第75期（自平成23年10月1日 至平成24年9月30日）の会社の状況等につきまして、以下のとおりご報告申し上げます。

平成24年12月

代表取締役社長 百目鬼 孝 一

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過および成果

当事業年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響からの復興および復旧の動きが見られたものの、原子力発電の方向性が依然として定まらない上、欧州の金融危機問題や円高の長期化に加え、新興国の景気減速懸念等の影響もあり、厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社におきましては、従来、原子力関連に重点的に配分していた経営資源の見直しを行い、人員配置等による社内の生産体制の最適化を図ってまいりました。

しかしながら、売上面において、産業システム関連製品は伸長いたしましたが、原子力関連の減少分を補うには及びませんでした。また、損益面におきまして、液晶製造装置向けヒータおよび原子力研究機関向けの特定の製品に関する不具合対策費用7千8百万円が発生したため、収益性が悪化いたしました。

この結果、売上高は前期に比し、3億3千9百万円減の36億4百万円（前期比8.6%減）、営業利益は前期に比し、7千1百万円減の1億1百万円（前期比41.4%減）、経常利益は前期に比し、6千5百万円減の9千8百万円（前期比40.0%減）となりました。当期純利益につきましても、特別損失の発生はなかったものの税金費用の発生により、前期に比し2千3百万円減の3千6百万円（前期比39.0%減）となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

(エネルギー関連)

エネルギー関連につきましては、原子力関連の研究機関向けナトリウム移送設備等の大口受注があり、受注および受注残高は増加いたしました。しかしながら、全体的には、原発事故の影響から原子力関連製品が低調に推移したことにより、当期の作業量は少なく、売上高は17億6千4百万円（前期比20.9%減）となり、セグメント利益（営業利益）につきましては、不具合対策費用が4千1百万円発生したこともあり、2億5千万円（前期比14.5%減）となりました。

(産業システム関連)

産業システム関連につきましては、液晶パネル製造装置向け基板加熱ヒータおよび研究機関向けの超高真空をつくり出すためのベーキングヒータ等の大口物件があり、売上高は15億3千7百万円（前期比6.7%増）となりましたが、液晶製造装置向けヒータにおいて、不具合対策費用が3千7百万円発生したため、セグメント利益（営業利益）は1億8百万円（前期比33.7%減）となりました。

(その他)

その他につきましては、食関連事業が順調に推移したため、売上高3億1百万円（前期比11.2%増）、セグメント利益（営業利益）3千2百万円（前期比252.9%増）となりました。

事業区分別の売上高および受注高

事業の区分	売上高	受注高
エネルギー関連	1,764,840千円	2,309,724千円
産業システム関連	1,537,590千円	1,534,692千円
小計	3,302,430千円	3,844,416千円
その他	301,655千円	6,051千円
合計	3,604,085千円	3,850,467千円

(注) その他の売上高には、食関連事業の売上高が含まれております。

(2) 対処すべき課題

今後のわが国経済は、国内における政治の混乱、震災復興事業の遅れ、原発事故の影響、海外における欧州の金融不安、新興国の景気低迷、長引く円高等およびわが国と中国との関係悪化も懸念され、景気の先行きは、依然として不透明感が強い中で推移するものと思われます。

このような状況のもと、当社におきましては、原子力関連製品につきまして、新規案件だけでなく、受注済案件についても計画延期あるいは中止等も視野に入れなければならない、不安定な面が否めない状況であります。

このため、当社のコア技術の一つであるシース型の熱電対・ヒータ・信号ケーブル等の製品を、風力発電、半導体・液晶製造装置および各種プラント等広範囲にわたり拡販すること、および、電磁ポンプを軸とする溶融金属機器の充実を図っていくことと考えております。

また、個人別稼働計画の推進等による生産体制の最適化と併せ、「良いものを、より安く、より早く」を実践することにより、顧客の信頼を得、受注および利益の確保に努めてまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 設備投資の状況

当事業年度におきましては、試験研究設備を中心に6千4百万円の設備投資を行いました。

(4) 資金調達の状況

該当事項はありません。

(5) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

(6) 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

(7) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

(8) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

該当事項はありません。

(9) 財産および損益の状況

区分	期	第 72 期	第 73 期	第 74 期	第75期(当事業年度)
	期間	平成20年10月～ 平成21年9月	平成21年10月～ 平成22年9月	平成22年10月～ 平成23年9月	平成23年10月～ 平成24年9月
売上高		4,190,236千円	3,879,311千円	3,943,337千円	3,604,085千円
経常利益		179,843千円	166,001千円	164,593千円	98,731千円
当期純利益		85,981千円	58,704千円	59,442千円	36,285千円
1株当たり当期純利益		12円89銭	8円80銭	8円92銭	5円45銭
純資産		3,648,356千円	3,585,501千円	3,536,390千円	3,501,312千円
総資産		6,304,957千円	6,367,575千円	6,343,866千円	5,982,842千円

(10) 重要な親会社および子会社の状況

- ① 親会社との関係
該当事項はありません。
- ② 子会社の状況
該当事項はありません。

(11) 主要な事業内容

当社は、電気機械器具、精密機械器具、食品等の製造および販売ならびに調理機器等の開発と飲食店の経営を主な事業とし、これら製品に付帯する設備工事等これに関連する事業を営んでおります。当社の事業内容は次のとおりであります。

- ① エネルギー関連
主要な製品は、原子力・火力発電所の温度制御関係および研究機関の安全性確認試験装置に使用されております。
- ② 産業システム関連
主要な製品は、鉄鋼・自動車・半導体・液晶等の製造装置の「熱と計測」に関する部分に広く使用されております。
- ③ その他
主に飲食店の経営を行うとともに、当社技術による調理機器等の開発を行っております。また、健康補助食品の製造および販売を行っております。

(12) 主要な営業所および工場

本社事務所	茨城県高萩市上手綱 3333-23
高萩工場	
滑川工場	茨城県日立市滑川本町 3-19-5
東京支店	東京都千代田区内神田 3-16-9 (松浦ビル)
大阪営業所	大阪府大阪市北区南森町 1-1-25 (八千代ビル南館)
広島営業所	広島県広島市東区光町 1-9-28 (第一寺岡ビル)
つくばオフィス	茨城県つくば市千現 2-1-6 (つくば研究支援センター C-A-9)

(13) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
197名	6名減	44.7歳	20.4年

(14) 主要な借入先

借入先	借入額
株式会社常陽銀行	889,982千円
株式会社みずほ銀行	436,000千円

(15) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の状況に関する事項

(1) 株式に関する事項

- | | |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 16,800,000株 |
| ② 発行済株式総数 | 6,710,000株 |
| ③ 株主数 | 1,030名 |
| ④ 大株主 | |

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株式会社ドウメキエンタープライズ	839,000株	12.59%
百 目 鬼 孝 一	565,940株	8.49%
東京中小企業投資育成株式会社	357,850株	5.37%
株 式 会 社 常 陽 銀 行	327,000株	4.91%
上 田 治 夫	306,000株	4.59%
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	207,000株	3.11%
常 陽 信 用 保 証 株 式 会 社	164,000株	2.46%
茂 角 広 子	153,941株	2.31%
島 田 睦	152,000株	2.28%
助川電気工業従業員持株会	131,369株	1.97%

(注) 持株比率は自己株式(47,266株)を控除して計算しております。

- ⑤ その他株式に関する重要な事項
該当事項はありません。

(2) 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 会社の体制および方針

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制は、次のとおりであります。

(1) 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

取締役は、定期的または必要に応じて随時開催する取締役会において、職務執行の状況を報告するとともに、相互にその職務執行を監督します。また、社外監査役を含む各監査役は、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、業務執行状況の調査等を通じて、取締役会の職務執行について監査します。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役会議事録、稟議決裁書類等の取締役の職務執行に係る情報については、文書または電磁的媒体に記録し、文書管理規程等の社内規則に基づき、適切かつ確実に保存および管理します。また、取締役、監査役または内部監査部門がこれらの文書等の閲覧を要請した場合には、直ちに提出できる体制とします。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

各担当部署において、必要な諸規程、教育訓練制度の整備を行い、リスク要因に関する管理を行います。

なお、組織横断的リスク状況の監視および全体的な対応は管理本部が行うものとし、新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定めます。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

毎年策定される年度計画に基づき各取締役が目標達成のための活動を行います。また、経営目標が予定どおりに進捗しているか、その実績を月次単位で管理することにより、定期的に検証を行います。

日常の職務の執行に際しては、取締役の担当業務を明確化させるとともに、定期的に開催する常務会を通じ、情報共有を行い、迅速な意思決定と効率的な職務執行を実施します。

(5) 使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

各種法令遵守の啓蒙・教育活動の継続的实施により、法令遵守への理解と意識を常に高めるよう努めます。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、早期に体制を整備し、必要な人員を配置します。また、監査役の職務を補助すべき使用人は、業務執行上の指揮命令系統には属さずに監査役の指揮命令に従うこととし、当該使用人の任命、異動、評価等に関しては、監査役会の事前の同意を得た上で決定するものとします。

(7) 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ① 監査役が、重要な意思決定のプロセスや業務執行の状況を詳細に把握するため、取締役会その他の重要な会議に出席するほか、稟議決裁書類その他の業務執行に関する文書等をいつでも閲覧し、必要に応じて取締役および使用人にその職務執行の状況報告を求めることができる体制とします。
- ② 取締役および使用人は、監査役または監査役会に対して、法定の事項に加えて、当社の経営に重要な影響を及ぼすおそれのある事実、内部監査の実施状況ならびに監査の必要上において報告を求められた職務執行の状況について、速やかに報告する体制とします。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役が、代表取締役、会計監査人、内部監査部門と定期的に意見交換の機会を持ち、監査上の意見および情報の交換を行うことにより監査の実効性を確保できる体制とします。

貸借対照表

(平成24年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	3,339,844	流動負債	2,089,242
現金及び預金	1,123,235	支払手形	286,198
受取手形	159,786	買掛金	185,679
売掛金	1,226,312	短期借入金	1,240,000
商品及び製品	137,386	1年以内返済予定の長期借入金	49,342
仕掛	405,820	リース債務	6,999
原材料及び貯蔵品	230,320	未払金	6,036
前払費用	11,194	未払費用	169,161
繰延税金資産	42,449	未払法人税等	33,013
未収入金	2,016	未払消費税等	17,182
その他	8,043	預り金	12,580
貸倒引当金	△6,720	前受収益	2,214
		賞与引当金	69,125
固定資産	2,642,997	設備関係支払手形	11,707
有形固定資産	1,787,300	固定負債	392,288
建物	625,005	長期借入金	36,640
構築物	42,816	リース債務	7,638
機械及び装置	170,539	退職給付引当金	339,353
車両及び運搬具	514	資産除去債務	8,300
工具器具及び備品	26,511	その他	355
土地	884,958		
リース資産	11,092	負債合計	2,481,530
建設仮勘定	25,860		
無形固定資産	35,548	(純資産の部)	
借地権	31,623	株主資本	3,542,279
ソフトウェア	1,076	資本金	921,100
リース資産	2,848	資本剰余金	1,164,309
投資その他の資産	820,148	資本準備金	1,164,236
投資有価証券	441,305	その他資本剰余金	73
出資	90	利益剰余金	1,487,854
長期貸付金	142,979	利益準備金	138,000
長期前払費用	12,066	その他利益剰余金	1,349,854
保険積立金	51,938	別途積立金	1,100,000
繰延税金資産	157,828	繰越利益剰余金	249,854
その他	29,920	自己株式	△30,984
貸倒引当金	△15,979	評価・換算差額等	△40,967
		その他有価証券評価差額金	△40,967
		純資産合計	3,501,312
資産合計	5,982,842	負債及び純資産合計	5,982,842

損 益 計 算 書

(自 平成23年10月1日)
(至 平成24年9月30日)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		3,604,085
売 上 原 価		2,809,602
売 上 総 利 益		794,483
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		692,626
営 業 利 益		101,857
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	4,509	
有 価 証 券 利 息	248	
受 取 配 当 金	3,863	
固 定 資 産 賃 貸 料	2,439	
受 取 保 険 金	2,375	
貸 倒 引 当 金 戻 入 額	3,600	
そ の 他	4,939	21,974
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	20,105	
固 定 資 産 廃 棄 損	4,458	
そ の 他	536	25,100
経 常 利 益		98,731
税 引 前 当 期 純 利 益		98,731
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		28,400
法 人 税 等 調 整 額		34,046
当 期 純 利 益		36,285

株主資本等変動計算書

(自 平成23年10月1日
至 平成24年9月30日)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当 期 首 残 高	921,100	1,164,236	73	1,164,309
当 期 変 動 額				
剰 余 金 の 配 当	—	—	—	—
当 期 純 利 益	—	—	—	—
別 途 積 立 金 の 取 崩	—	—	—	—
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—
当 期 末 残 高	921,100	1,164,236	73	1,164,309

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	利 益 剰 余 金				自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
別途積立金		繰越利益剰余金				
当 期 首 残 高	138,000	1,300,000	93,531	1,531,531	△30,660	3,586,280
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当	—	—	△79,961	△79,961	—	△79,961
当 期 純 利 益	—	—	36,285	36,285	—	36,285
別 途 積 立 金 の 取 崩	—	△200,000	200,000	—	—	—
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	—	△324	△324
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—
当 期 変 動 額 合 計	—	△200,000	156,323	△43,676	△324	△44,001
当 期 末 残 高	138,000	1,100,000	249,854	1,487,854	△30,984	3,542,279

(単位：千円)

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純 資 産 合 計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当 期 首 残 高	△49,889	△49,889	3,536,390
当 期 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当	—	—	△79,961
当 期 純 利 益	—	—	36,285
別 途 積 立 金 の 取 崩	—	—	—
自 己 株 式 の 取 得	—	—	△324
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	8,922	8,922	8,922
当 期 変 動 額 合 計	8,922	8,922	△35,078
当 期 末 残 高	△40,967	△40,967	3,501,312

個別注記表

重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価の基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

製品、仕掛品……………個別法に基づく原価法

半製品、原材料、貯蔵品……………移動平均法に基づく原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社の償却の方法は以下のとおりであります。

建物（建物附属設備は除く）

平成10年3月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

平成10年4月1日以降に取得し、かつ平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定額法によっております。

平成19年4月1日以降に取得したもの

定額法によっております。

建物以外

平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

平成19年4月1日以降に取得したもの

定率法によっております。なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～47年

機械装置及び運搬具 4～7年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

- ③ リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 - リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。
- (4) 引当金の計上基準
 - ① 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - ② 賞与引当金
 - 従業員賞与に充てるため支給見込額に基づき計上しております。
 - ③ 退職給付引当金
 - 従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき計上しております。
- (5) 収益及び費用の計上基準
 - 完成工事高の計上基準
 - 完成工事高の計上は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）をその他の工事については工事完成基準を適用しております。
 - なお、工事進行基準による完成工事高は、234,798千円であります。
- (6) その他計算書類の作成のための重要な事項
 - 消費税等の処理方法
 - 税抜方式を採用しております。

追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当事業年度の期首以降に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	3,658,250千円
(2) 担保に供している資産	
建物	468,664千円
機械及び装置	27,416千円
土地	580,258千円
借地権	27,785千円
合計	1,104,124千円
上記に対応する債務	
短期借入金	1,240,000千円
1年以内返済長期借入金	49,342千円
長期借入金	36,640千円
合計	1,325,982千円
(3) 保証債務	
下記の会社の金融機関借入金について、保証予約を行っております。	
三ツ輪工業株式会社	2,916千円

株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式の数	普通株式	6,710,000株
(2) 当事業年度の末日における自己株式の数	普通株式	47,266株
(3) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項		

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年12月21日 定時株主総会	普通株式	26,655	4	平成23年9月30日	平成23年12月22日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	53,306	8	平成24年3月31日	平成24年6月8日

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年12月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	26,650	4	平成24年9月30日	平成24年12月21日

- (4) 当事業年度の末日における当社が発行している新株予約権の目的となる株式の数
該当事項はありません。

税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
退職給付引当金	121,378千円
賞与引当金	26,101千円
賞与未払社会保険料	4,011千円
構築物	4,881千円
貸倒引当金	8,352千円
ゴルフ会員権評価損	3,895千円
一括償却資産	458千円
未払事業税	2,971千円
電話加入権	1,275千円
減損損失	29,697千円
在庫評価減	6,611千円
資産除去債務	2,135千円
その他	1,747千円
繰延税金資産小計	213,517千円
評価性引当額	△35,669千円
その他有価証券評価差額金	22,429千円
繰延税金資産合計	200,277千円

(2) 法人税率の変更等による影響

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成24年9月30日まで 40.0%

平成24年10月1日から平成27年9月30日 37.8%

平成27年10月1日以降 35.4%

この税率の変更により繰延税金資産の金額が21,441千円減少し、当事業年度に費用計上された法人税等調整額は18,512千円、その他有価証券評価差額金は2,928千円、それぞれ増加しております。

金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、主に電気機械器具・精密機械器具の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、取引先企業との業務に関連する株式、または、投資信託等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、取引先企業等に対し長期貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で3年以内であります。

資金は固定金利により調達し、金利リスクを回避しております。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

(ア) 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、営業本部および管理本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当事業年度の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

(イ) 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社の外貨建て営業債権は僅少であるため、為替の変動リスクも僅少であります。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを回避するために、長期資金は固定金利を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)等の財務状況を把握するとともに、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

(ウ) 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を売上高の1か月分相当に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

⑤ 信用リスクの集中

当事業年度の決算日現在における営業債権のうち30.4%が特定の大口顧客に対するものであります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成24年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注2)を参照ください。)

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,123,235	1,123,235	—
(2) 受取手形	159,786	159,786	—
(3) 売掛金	1,226,312	1,226,312	—
(4) 投資有価証券	385,582	385,582	—
(5) 長期貸付金	142,979		
貸倒引当金(※)	△15,979		
	127,000	129,566	2,566
資産計	3,021,916	3,024,482	2,566
(1) 支払手形	286,198	286,198	—
(2) 買掛金	185,679	185,679	—
(3) 短期借入金	1,240,000	1,240,000	—
(4) 長期借入金	85,982	86,824	842
負債計	1,797,860	1,798,702	842

(※) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、並びに(3) 売掛金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託等は公表されている基準価格または取引金融機関から提示された価格によっております。

(5) 長期貸付金

当社では、長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、または、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金、及び(3) 短期借入金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、長期借入金については、1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	55,722

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

関連当事者との取引に関する注記

当社と関連当事者の取引

役員及び主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその 近親者が議決権の過 半数を有し ている会社	㈱ドウメキ エンタープライズ	茨城県 日立市	100,000	資産管理会社	直接 (12.5)	役員の兼任	貸付金	—	長期 貸付金	127,000
							受取 利息	3,133	—	—

(注) 1 役員及びその近親者が議決権の100%を保有しております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

貸付金については、当社株式839千株を担保として受け入れており、金利は当社の調達金利を基準として決定しております。なお、取引金額、期末残高には消費税等は含まれておりません。

1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 525円51銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 5円45銭 |

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

会社の概要 (平成24年9月30日現在)

社名	助川電気工業株式会社 SUKEGAWA ELECTRIC CO., LTD
設立年月日	昭和24年(1949年)2月3日
資本金	9億2,110万円
本店所在地	茨城県日立市滑川本町三丁目19番5号 (本社事務所 茨城県高萩市上手綱3333-23)
ホームページ	http://www.sukegawadenki.co.jp/

役員 (平成24年12月20日現在)

代表取締役社長	百目鬼 孝 一
常務取締役	水庭 眞
常務取締役	佐藤 一雄
取締役	三浦 邦明
取締役	小滝 理
常勤監査役	小須田 邦光
監査役	金澤 純一
監査役	小野 修一郎

(注) 上記のうち、監査役 金澤純一および小野修一郎は、会社法第2条第16号および第335条第3項に定める社外監査役であります。

株 主 メ モ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	事業年度末日から3か月以内に開催いたします。
基準日	(1) 定時株主総会議決権 9月30日 (2) 期末配当金 9月30日 (3) 中間配当金 3月31日 (4) その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めた日とします。
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 当社のホームページアドレス http://www.sukegawadenki.co.jp/
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 (日本ビル4階) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
〔郵便物送付先〕 〔連絡先〕	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター (お問い合わせ先) ☎ 0120-49-7009

「配当金計算書」について

配当金を銀行等への口座振込（株式数比例配分方式を除きます。）または配当金領収証にてお受け取りの場合、同封いたしました「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご指定の方におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。